

令和 8 年度 市長との対話集会（雲浜地区） 議事要旨

日 時：令和 8 年 9 月 29 日（火）19 時 00 分～20 時 45 分

場 所：雲浜コミュニティセンター

参加者：27 名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

(1) 地域資源（水・祭り）の活用

- ・雲浜地区の豊かな水資源を活かし、飲料水を利用したお酒・豆腐などの食品開発を行う。
- ・「お城まつり」や「雲浜獅子」などのへ参加者が減少している現状を踏まえ、外からでも参加しやすい形に改善していく。

(2) 伝統工芸と地元企業の連携・観光振興

- ・「若狭塗箸」や「若狭めのう」の知名度を上げ、富裕層向け等に付加価値をつけたブランド化を図る。
- ・全国トップシェアを持つ地元企業「芝浦自販機」と連携し、独自の観光チケット発券機などを設置して誘客に繋げる。
- ・エンゼルラインのロケーションを活かし、アジサイなどの花植えやキッチンカーの誘致、サイクリングコースの活用などによる地域活性化を図る。

(3) ドラマ効果の継続と体験型プログラム

- ・ドラマのブームを一過性に終わらせないため、ロケ地マップの常設展示や聖地巡礼ルートの整備を行い、持続的な誘客に繋げる。
- ・水産高校が昔作っていた「赤いラベルのサバ缶」を復刻販売する。
- ・サバ缶が宇宙へ行くまでの過程を学べる「水産加工場見学」や「定置網漁体験・漁師との朝食」などの体験型プログラムを商品化する。

(4) 新幹線延伸を見据えた定住促進と都市計画

- ・北陸新幹線の大阪延伸を見据え、関西圏からの移住者を受け入れるベッドタウン化に向けた都市計画を、全線開通の 10～20 年前から早期に策定してほしい。
- ・若年層や子育て世代の移住定住を促すため、高齢者の医療費助成や小中学校の給食費無償化など、住みやすい環境づくりを進めていく。

2 市長からの主な回答

(1) 地域資源（水・祭り）の活用

- ・水の魅力はリピーター獲得の鍵となる。今後、西津橋・大手橋・城内橋の開通イベントや「若狭マラソン」のコース変更（雲浜・城下町エリア経由）等を通じて PR ができれば良い。
- ・水を利用した食品開発（お酒・豆腐等）は、PR に大変効果的である。祭りの参加型への移行は地域住民の理解を前提としつつ、ゲーム（太鼓の達人）とのコラボ等のアイデアも面白い。

(2) 伝統工芸と地元企業の連携・観光振興

- ・「若狭塗箸」や「若狭めのう」の付加価値向上は、まさにブランドでありインフルエンサー等を活用した情報発信は非常に有効である。
- ・芝浦自販機との連携による独自自販機の設置は新たな誘客策として大変面白い。
- ・エンゼルラインの魅力発信や、市民も参加できるサイクリングイベントが開催できると良い。

(3) 朝ドラ・サバ缶効果の継続と体験型プログラム

- ・教育・探究のまちとしてのブランド化が進み、視察等が増加している。効果を継続させるため、ロケ地マップの常設掲示等を検討していく。
- ・水産高校のサバ缶復刻については、当時のレシピ等の有無を教育長に確認してみる。
- ・実際の加工場や漁業の裏側を見せる体験型ツアーは魅力的であり面白い。

(4) 新幹線延伸を見据えた定住促進と都市計画

- ・新幹線延伸を見据えたまちづくりは、今から着手する必要がある。豊かな自然や食、教育（探求学習）を強みとした選ばれるまちづくり、および早期の都市計画策定を進めていく。また、今後の人口減少を踏まえて、広域連携によるコンパクトなまちづくりも並行して推進していく必要がある。